



ごみ処理施設でのリペア・リユース

廃棄物資源循環学会
環境学習施設研究部会
(川崎重工工業(株))

みよし ゆうじ
三好 裕司

廃棄物資源循環学会
環境学習施設研究部会
(一財)環境事業協会

まさがき りつこ
正垣 律子

はじめに

環境学習施設研究部会は、廃棄物資源循環学会の研究部会の一つで、全国のごみ処理施設で行われている環境学習の知識や経験を共有するとともに、その効果や運営の妥当性を図る方法を考え、自主的に環境保全に取り組む人々の育成や支援の方法を研究する活動を行なっています。

ごみ処理施設では、リペアもリユースも環境負荷を削減する観点から、リペア（修理）したものをリユース（再利用）する一貫した取り組みが全国で行われています。本記事は、廃棄物資源循環学会誌 Vol. 35 No. 3 (2024) に掲載した「ごみ処理施設による啓発のための修理・リユースの取り組み」を、一般の方向けに書き直したものです。

リペア・リユースを実施するごみ処理施設

少し古いデータになりますが、2013年度の一般廃棄物処理実態調査の結果から、啓発等を伴う「リサイクルプラザ」は全国で281施設あると推計されています。そして、このうち、少なくとも160施設でリペア・リユースが実施されています。

どのような品目のリペア・リユースが実施されているか、そして、それらが有償販売なのか、無償提供なのかを、

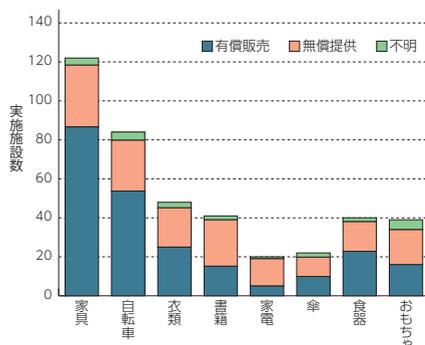


図1 リペア・リユースの実施設数

アンケート結果から環境学習施設研究部会で整理したものが図1になります。家具や自転車等が多く、それらは多くの施設において有償販売されています。書籍やおもちゃは無償提供している施設が多くなっています。

リペア・リユースコンテンツ

図1の中の、家具、衣類、おもちゃについて、リペア・リユースを実施しているごみ処理施設の事例を紹介していきます。また合わせて、子ども向けリユース工作を実施しているごみ処理施設の事例も紹介します。

(1) 家具の修理・販売

富士市新環境クリーンセンターでは、粗大ごみとして持ち込まれた家具を、排出者に修理・再生および販売に関する了承を得た上で譲り受けます。指定管理事業者から委託されたシルバー人材センターのスタッフが修理を行い、

表1 富士市新環境クリーンセンターにおける家具修理再生事業の実績

年度	2021	2022	2023
年度末在庫	13	26	54
修理数	53	58	25
販売数	39	30	51
廃棄数	1	0	0
当年度末在庫	26	54	28

デザイン性の高い陳列棚に展示し、不定期で抽選販売を行なっています。その実績を表1に示します。

多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター（愛称 エコにこセンター）でも、粗大ごみの再生販売を行なっています。2002年の開館当初は、廃棄される家具類はしっかりした造りの無垢材が多かったのですが、近年は、安価で機能的で見栄えのするパーティクルボード製がほとんどとなり清掃のみで提供しています（写真1）。

浜松市西部清掃工場環境啓発施設「えこはま」のリユース工房では、家庭で不要となった木製家具を寄付していただき、点検・清掃・塗装を行い、希望する市民に販売する事業を行なっています。実績は受付件数2,545件、修理完



写真1 家具の清掃の様子



写真2 椅子の張り替え教室

了件数は2,536件、販売件数は2,420件、実績が多いのは学習机となっています。

(2) 椅子の張り替え教室

国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」では、古くなった、あるいは壊れた椅子を受講者自身が持ち込んで、座面の張り替えに挑戦するワークショップを開催しています（写真2）。厚生労働大臣表彰「現代の名工」受賞者、令和6年春の黄綬褒章受賞者である森下明久氏（有モリス工芸社 社長）がメイン講師をしています。長年使い込んだ椅子や味わい深いアンティーク調の椅子を、普通の人が自分で修理するのはハードルが高いですが、講師の指導の下、完成したときの満足度は非常に高いようです。

(3) 着物リメイク教室

(2)と同じく国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」では、着物リメイク教室も行なっています（写真3）。家庭で眠っている着物を、バッグやポシェット、ワイドパンツ、チュニック、スカート、ベスト等に作り直す教室です。「たんすの肥やしになっていた着物がよみがえった」と受講者には好評です。



写真3 着物リメイク教室

(4) おもちゃ病院

札幌市リサイクルプラザでは、市民から預かったおもちゃを修理（無料、新品の部品代は実費）するおもちゃ病院を開設しています。開館中であれば、いつでも持ち込み、修理、完了後の持ち帰りができるので、自分のタイミングで利用することができます（写真4）。



写真4 修理後のおもちゃの引き渡しの様子



写真5 おもちゃ病院のドクターたち

年間 600～700 点の持ち込みがあり、ボランティアスタッフとして登録しているおもちゃドクター20名（写真5）が月に10日間程度修理を行なっています。

浜松市西部清掃工場 環境啓発施設「えこはま」では、毎月第2日曜日に市民団体の協力により、おもちゃ病院を開催しています。これまでの実績は、受付件数 3,861 件、修理完了件数 2,712 件です。毎月 20 件程度の修理依頼があり、持ち込まれるおもちゃは、電池切れの単純なものから配線切れや部品摩耗のものまでさまざまです。交換部品に関しては、新品や壊れたおもちゃの部品等を再利用しています。

多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター（愛称 エコにこセンター）では、おもちゃ病院を隔月で開催しています。それに加えて、おもちゃ病院のドクター有志による「こでん診療処」を月2回程度開催しています（写真6）。「こでん診療処」は市民が不具合のある小さな家電品を持参し、修理可能かどうかなどを相談する場です。電池ボックスの錆や電池のプラスマイナスが逆であるなど、その場でアドバイスすればすぐに使用できる事例が多くみられます。最近多い事例はリモコンの不具合で、使用不可の場合の代替品の買い方等のアドバイスもしています。

(5) 子ども向けリユース工作

京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」では、ごみになるものを材料にしておもちゃを作る、さまざまなリユース工作を実施しています。

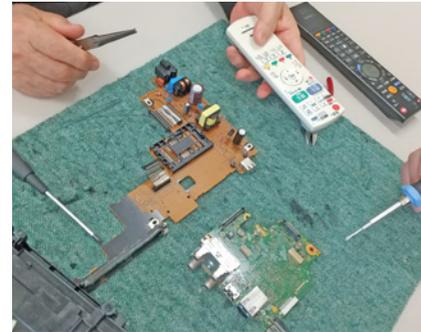


写真6 「こでん診療処」の様子

「幼児のための環境プログラム作成の会」の天野光雄氏が講師をする「ペットボトルから作る風車」や「牛乳パックから作るびっくり箱」では、参加者は、ペットボトルや牛乳パックのリサイクル技術や工程をクイズ形式で知るとともに、素材の性質やリサイクル後の製品にどのようなものがあるかを学んだ後、風車やびっくり箱作りを楽しみます。

また、京都市内の企業・事務所から、ものづくり等の事業活動の過程で出てくる端材を利用して工作する「ゴミラプロジェクト」（写真7）も人気プログラムの一つです。京都芸術大学名誉教授の水野哲雄先生が名づけ親で、京都市ごみ減量推進会議の協力を得て実施しています。子ども達は「どんな工場から、どんな製品がつけられる過程で端材となったのか」を知り、「役割を終えても、方法や視点を変えて使うことで資源となる」ことを遊びながら体験できます。

おわりに

愛着のあるもの、由来のあるもの、上質なものを大切に使いたい、自分で修理したいという気持ちは、誰にでもあるものと思います。リペア・リユースは、ものを永く大切に使う気持ちを育むとともに、ごみ減量の推進につながると考えます。

今回、全国7つの施設で行われているリペア・リユースの事例を紹介しました。地元の方々の協力を得ながら、さまざまな取り組みが行われています。皆様の近くのごみ処理施設でも、このような取り組みが行われているかもしれません。是非、のぞいてみてください。



写真7 ゴミラプロジェクト「見えなかったことが出てくるかな」のキャプションとともにポスターに使われている写真

参考文献

- 1) 環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課：環境省廃棄物処理技術情報，一般廃棄物処理実態調査結果，https://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/index.html（閲覧日 2024年4月15日）
- 2) 大澤正明：リサイクルプラザの今とこれから，NPO 法人生活環境ネット，pp. 2-3（2016）